



アンティーク ローズ

Antique Rose

blood.6





昔懐かしい、
いたごも忘れて
しまっている
ノアル……差さん

バラの香りの
満ちた温室の中

記憶のないままの
差さんは僕を……

お母を好きだよ
っていってあげた



あの差さんの
想いは……

差さんの心の中が、
ノアルを想う気持ちか
残っているせいなのか

それとも……



うん
わかった

明日は私も
学校へ行くよ

ごあいさつして
おきたいからね

はい



前世のことを
思い出したのは
いいけれど……

ふけいた
とっついていいか
わからなく
なっちゃった

うん



でも…

紅音さま

私ではあなたさまの
苦しみを肩代わりする
ことはできません

でも…



何かお力に
なれることがあれば
きつと頼ってください

私はその為に
生まれ変わったの
ですから



黒慧さん



あのまま何も
思い出さずに
いたらなら

もしかしたら
麗さんと紅音のままで
話されることも
あつたんだらうか



考えても
仕方ないこと
なのに…

こんな自分が
嫌になる



紅音さま

は、

しばらく
代わりましょう

黒慧さん？



お茶の用意を
しましたから
少し休んできて
ください



この前は
ホントごめん
頭冷えたら
バカなこと
したなって…



すーちゃん



すーちゃん

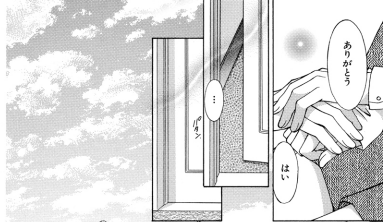
よく来たな
また一緒なんて
すげえ嬉しい



ちがった

うん
僕のバイバイ

めちやめちや
反省してる…から
許してくんねえ?



ありがとう

はい



紅音